

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①生徒の学習意欲の向上をめざした授業改善
- ②確かな学力の定着を図る家庭学習の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員  
 教諭: 田上 陽子 教務主任: 山本 耕治 1学年主任: 田上 陽子  
 (1学年主任・特別 2学年主任: 居村 雅人 3学年主任: 笹田 紀久美  
 活動) 特別支援教育コーディネーター: 山村 美奈

校長

宮田 秀人



【各校の取組状況の把握について】

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な課題に、生徒1人ひとりが自分のペースで取り組むことができる。 ●繰り返し学習や、暗記を苦手とし、基礎的・基本的な知識の習得が十分でない生徒が見受けられる。	生活記録、自主学習、授業中のノートをしっかり書くことで、継続的な取組及び基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	①分かり易い授業を展開するため、個に応じた授業形態や指導方法の工夫・改善を図る。 ②家庭学習につながる宿題の質と量、及び提示の仕方を研究し、実践する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習活動の発表や学校行事など表現の場において、自分たちで意見を出し合い、積極的に取り組む。 ●授業や各活動に対する集中力や理解力に格差が見られる。時と場に応じた適切な表現が難しい生徒がいる。	話をしっかりと聞くことができ、自分の意見や考えを整理し、様々な状況に応じた伝え方で、相手に分かり易く発表及び説明をすることができる。	①授業の目標を明示し、授業の終わりに振り返りをするなど、まとめの時間を確保する。 ②授業や学校行事の中で、発言・発表できる場を設定し、時と場に応じた表現の仕方を考えさせるとともに、聞く態度を育てる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な態度で授業に取り組める。宿題や課題については、多くの生徒が真面目に取り組む。 ●宿題をはじめ、与えられた課題のみの取組で終わってしまう生徒が多く、家庭での学習は不十分である。	将来の夢や目標を持ち、その達成に向け、諦めずに自ら学び続けることができる。	①より良い取組が望む結果につながるよう、学習計画や実践を見直すサイクルを確立させる。 ②家庭や地域と連携し、家庭学習の向上や職場体験学習などのキャリア教育の充実を図る。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

